

筑波大学特別講義

— 大学と学問 —

科目情報

総合科目（学士基盤科目）
1226051「筑波大学特別講義—大学と学問—」
大学院共通科目 0A00508「UT-Top Academicist's Lecture」

開設学期・曜日時限

春 BC 水曜日 6 時限（16:45~18:00）

科目責任者

川口 敦史（医学医療系 教授）
後藤 嘉宏（図書館情報メディア系 教授）
木塚 朝博（体育系 教授）

◆ 筑波大学特別講義について 副学長（教育担当） 清水 諭

私たちが暮らす社会は、気候、災害、食料、病原菌のほか、移民や紛争の問題、さらに金融や情報管理について、地球規模で考えなければならない多くの出来事が発生しています。さらに、サイバー（仮想）空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させた新たな社会（Society 5.0）に向け、人々が快適で活力に満ちた生活を送るための仕組みづくりが進められています。

学生の皆さんには、これまでの歴史や記憶にはない新たな状況が生起する現在において、様々な分野の知識を集積しつつ、融合させ、変動する社会に貢献できる力を身につけることが求められています。

学ぶことは書籍やネット上の情報を集めるのみならず、イノベーションを実装してきた先人たちと出会い、話をすることから始まるといってもいいでしょう。本講義を担当する講師は、本学の学長をはじめとして、革新的なアイデアを構想し、突き詰め、実践してきた方々です。皆さんが、その生き方、学び方を聞き、対話し、研究の広がりや深さ、そして自らの将来を考えていただくことを期待しています。

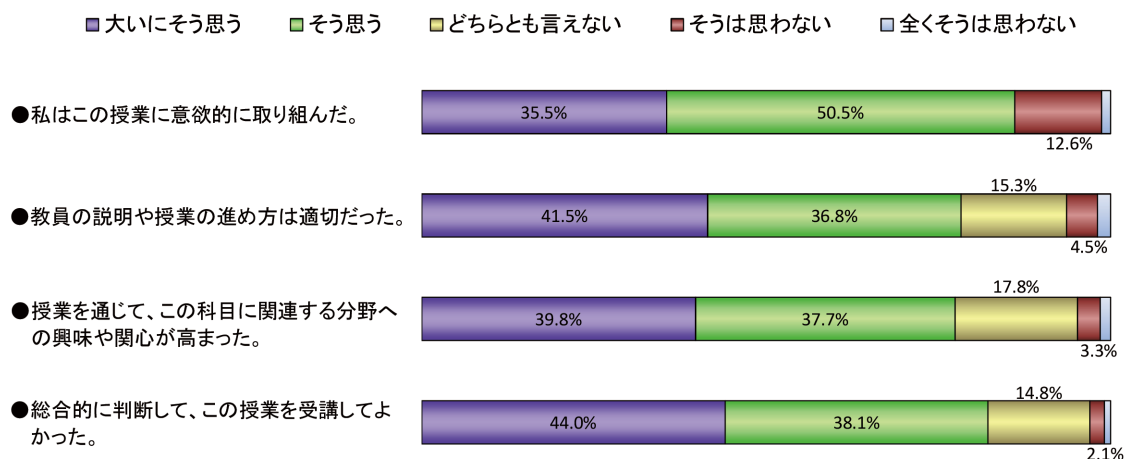


受講した学生からの反響

受講者アンケートからも分かる様に、講師陣の熱意あふれる講義は大半の受講生にしっかりと届いています。そしてその結果たくさんの受講生達が「新しい知識や考え方が習得できた」「満足できる講義だった」と評価しています。

これまでの講義では質疑の挙手が後を絶たず、時間の関係で終了した後もステージに学生が駆け寄り個々に質問する場面が見られるなど、大変好評でした。この特別講義の感動を、今度は是非あなた自身が体験してみてください！

2018 年度筑波大学特別講義受講者アンケート結果から（回答者数 約 750 人）



講師陣紹介

第1回
5/20



永田 恭介

筑波大学 学長

プロフィール アルバート・アインシュタイン医科大学博士研究員、スローンケタリング記念癌研究所研究員、国立遺伝学研究所助手、東京工業大学助教授、同教授を経て、2001年から筑波大学教授、2009年から学長補佐室長。2013年より学長就任。専門は、分子生物学、生化学、ウイルス学。1993年日本ウイルス学会杉浦奨励賞受賞。著書に、「ウイルスの生物学(羊土社)」、「ウイルス実験プロトコル(メジカルビュー社)」等多数。

授業概要 **大学と学問** 科学と技術の進歩は、人類社会に大きな発展をもたらした。しかし、一方ではエネルギー資源に関する問題、産業・経済に関わる問題、食料、人口構成、格差社会の問題などを生んだ。いずれの問題についても地球規模での認識と解決が必要である。基礎科学から創業にまで繋がる研究に携わってきた経験と実感を交えて、これからの大学の役割と大学における学問について考える。

第2回
5/27



近藤 誠一

近藤文化・外交研究所 代表、国際ファッション専門職大学 学長

プロフィール 神奈川県出身。東京大学卒。1972年外務省入省。OECD事務次長、外務省広報文化交流部長などを経て、ユネスコ大使、駐デンマーク大使、文化庁長官。退官後東京大学特任教授、慶應義塾大学特別招聘教授等を務めたほか、現在も長野県、京都市、横浜市等の文化関係財団理事長、企業の社外取締役等を務める。フランス共和国レジオンドヌール・シュヴァリエ章(2006)、平成28年瑞宝重光章受賞。『ミネルヴァのふくろうと明日の日本』『日本の匠』等著書、論文多数。

授業概要 **21世紀の知的リーダー像** 複雑な国際関係や地球環境問題、急速に進化するテクノロジーを適切に処理し、価値観の多様化の中で世界を安定と平和に導くには、優れたリーダーと同時にそれを実践するフォロアーが必要である。それにはこれまでの人類文明の流れを把握し、人類の知の蓄積を踏まえた思索と対話を行える大局観と、それを自ら能動的に行動していくしっかりとした座標軸をもつ人材を育てなければならぬ。それを果たせるのは大学において他にない。

第3回
6/3



河野 一郎

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 副会長

プロフィール 1999年筑波大学教授。2010年より筑波大学特命教授、学長特別補佐。日本オリンピック委員会理事、2016年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事務総長、日本スポーツ振興センター理事長、ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長代行など歴任。現在、日本ラグビーフットボール協会顧問、日本アンチドーピング機構顧問、日本スポーツフェアネス推進機構代表理事、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副会長。

授業概要 **スポーツの力** 現代社会におけるスポーツは、驚異的な発展を遂げたばかりでなく、極めて大きな社会的影響力をもつに至った。今やスポーツは、政治的、経済的、さらに文化的にも、人々の生き方や暮らし方に重要な影響を与えている。このスポーツの力を活用し、スポーツの発展を人類社会が直面するグローバルな課題の解決に貢献するよう導くことは、未来へ向かう第一歩となる。(スポーツ宣言ニッポンより)

第4回
6/10



柳沢 正史

筑波大学 教授、
筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIS) 機構長

プロフィール 1985年筑波大学医学専門学群卒業、1988年筑波大学基礎医学系博士課程修了(薬理学)。筑波大学講師、京都大学講師を経て1991年渡米し、2014年までテキサス大学教授兼ハワードヒューズ医学研究所研究員。2010年より筑波大学教授を兼任し、内閣府最先端研究開発支援プログラム(FIRST)中心研究者として筑波大学に研究室を設立。2012年より文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)に採択され、国際統合睡眠医科学研究医科学機構(IIS)の機構長として睡眠覚醒の謎に挑んでいる。筑波大学大学院生のときに心血管系の重要な制御因子「エンドセリン」を世界に先駆けて同定、テキサスでは睡眠覚醒を制御する脳物質「オレキシン」を発見した。これらの発見は、現在臨床の現場で使われている新薬の開発に直接結びついた。2003年米国科学アカデミー正会員選出、2016年紫綬褒章、2017年ベルツ賞、2018年朝日賞、慶應医学賞、2019年文化功労者、高峰記念第一三共賞等受賞多数。

授業概要 **睡眠・覚醒の謎に挑む** 「なぜ眠らなければならないのか?」「そもそも眠気とは何か?」といった誰もが抱く疑問は未だに解明されていない。日米両国で最先端の研究を行ってきた経験を踏まえ、現在筑波大学で行っている睡眠・覚醒の根本的メカニズムの解明に関する研究について紹介する。

第5回
6/17



赤坂 清隆

公益財団法人フォーリン・プレスセンター 理事長

プロフィール 1971年に外務省に入省。国際機関での勤務が長く、GATT(WTOの前身)、世界保健機関(WHO)に勤務。経済協力開発機構(OECD)事務次長ののち、2007年から2012年まで国連事務次長(広報局長)。2012年より現職。近著に、「国際機関で見た「世界のエリート」の正体」(中公新書ラクレ)、「世界のエリートは人前で話す力をどう身につけるか」(河出書房新社)。

授業概要 **グローバルに活躍することの魅力** 世界は、リーダーが存在せず、将来を予測するのが困難な「不確実な世界」に突入しつつある。このような世界への日本人の対応能力は、他国に比べて低い。地域紛争や、気候変動、感染症、SDGsなど、グローバルな課題が山積しつつあり、その対応能力を持った人材が求められているほか、グローバルに事業を展開する日本企業なども、世界を舞台に活躍できる人材を求めている。国連他4つの国際機関で働いた自らの経験をもとに、グローバルに活躍することの魅力を語り、そのための準備の仕方を示唆する。

講師陣紹介

第6回
6/24



守屋 正彦

山梨県立博物館長、筑波大学名誉教授

プロフィール 1976年東京教育大学、78年同大学院修了。博士(芸術学)。山梨県立美術館学芸員、同課長を経て、1995年筑波大学助教授、2004年筑波大学教授。2018年山梨県立博物館長、筑波大学名誉教授。太田記念美術館理事。専門は日本美術史、日本文化論。著書に「近世武家肖像画の研究」「すぐわかる日本の絵画」など。

授業概要 **AI時代のクリエイティビティー…美的表象から感性を磨く** 知識を有機的に結びつける。それは多面的にものをとらえることで養われる。AIの時代は人間本来の感性や創造性の涵養が求められ、それは知識を知性や教養に結びつける。講義では日本の造形精神を確認しながら、日本文化のあり方を理解する。グローバル社会の中での、日本の個性。君たちの生き方が問われる時代が来ている。

第7回
7/1



高橋 裕子

津田塾大学 学長

プロフィール 津田塾大学英文学科卒業。筑波大学大学院(国際学修士)、アメリカ・カンザス大学大学院(M.A., Ph.D.)などを経て、1997年から津田塾大学専任教員。2016年より同大学長。専門はアメリカ社会史(家族・女性・教育)、ジェンダー論。著書に『津田梅子の社会史』(玉川大学出版部、2002年)等。アメリカ学会会長、ジェンダー史学会常任理事、日本学術会議連携会員、日本私立大学連盟常務理事。

授業概要 **女子高等教育のバイオニア：津田梅子** 新5千円券の肖像に選ばれた津田梅子。財務省のウェブサイトによると、「1871年、岩倉使節団に随行した最初的女子留学生の一人。1900年に女子英学塾(現 津田塾大学)を創設するなど、近代的な女子高等教育に尽力」したことが選定の理由だ。津田梅子が生きた明治・大正の時代に、「男女共同参画」という言葉はなかった。しかし、彼女は女性の社会参画、社会貢献をめざし、女子高等教育のバイオニアとして、<人作り>にかけた夢を粘り強く追い求め、果敢に実現させた。いかにして女性リーダーの育成を可能にしたのか、その先駆的な手法や津田梅子の<スピリット>を紹介したい。

第8回
7/8



鈴木 健嗣

筑波大学 システム情報系教授、筑波大学 サイバニクス研究センター長

プロフィール 2003年早稲田大学理工学研究科物理学及応用物理学専攻修了、博士(工学)。早稲田大学助手、筑波大学講師、同准教授、及び伊・ジェノヴァ大学、仏コレージュ・ド・フランスの客員研究員を経て、2016年より筑波大学教授。専門は、人工知能、サイバニクス他。JSTさきがけ研究者を経て、現在、JST CREST研究代表者。本学サイバニクス研究センター、人工知能科学センター、附属病院未来医工融合研究センター設立に参画。

授業概要 **人々を支援する人工知能とヒューマン・テクノロジー** 人々の残存機能や、本来有する能力を引き出すためのテクノロジーに関する研究を紹介する。これらは、人々の行動の深い理解に基づき、人工知能やロボット等の工学的な手法により行動形成を支援することで、人々が主体性を持って社会的な行動を行う未来を実現するための取り組みである。応用科学と社会実装に携わってきた経験を踏まえ、文理を超えた新しい学問分野や新産業を開拓するため、学術性と実践知を両立する学問の重要性について考える。

第9回
7/15



羽山 明

理想科学工業株式会社 代表取締役社長

プロフィール 1965年東京都生まれ。1987年慶應義塾大学理工学部電気工学科卒業。旭化成工業株式会社(現旭化成株式会社)勤務を経て、1990年理想科学工業株式会社入社。1995年米国カーネギーメロン大学経営学修士(MBA)。同年取締役。1999年代表取締役社長就任。現在に至る。

授業概要 **経営者として学んだこと** 私は電気技術者になりたいと思い、大学卒業後化学会社に就職しましたが、その後父が創業した理想科学に入社して経営の勉強を始めました。30代半ばから21年間、全世界に販売網を持つ事務機器製造会社のトップを務めています。それは組織運営、人生、社会などについてのさまざまな「学び」の時間でもありました。講義では、私が学んだことをいくつか紹介します。

第10回
7/22



八木 勇治

筑波大学 生命環境系教授

プロフィール 専門は地震学。世界中に展開されている地震観測網で観測されたビックデータを解析する手法を開発し、巨大地震時の不規則な破壊伝播現象等の解明に取り組んでいる。2002年に博士(理学)を取得後、建築研究所研究員、筑波大学生命環境科学研究所科助教授、同准教授を経て、18年より現職。

授業概要 **地震現象を理解して正しく恐れる** 南海トラフ巨大地震や首都直下地震等がマスコミで取り上げられているが、様々な仮定の基に算出された予測や数字が一人歩きし、これらの地震のリスクや切迫度を正しく把握することが難しくなっている。本授業では、地震現象を概説した上で日本の地震活動について説明し、地震対策とその問題点について議論する。